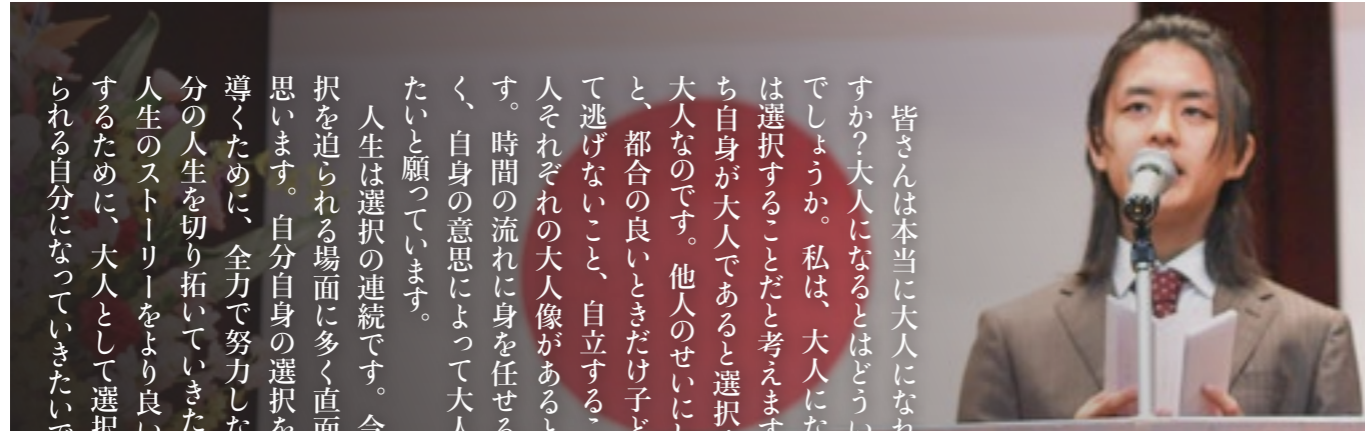


二十歳の決意

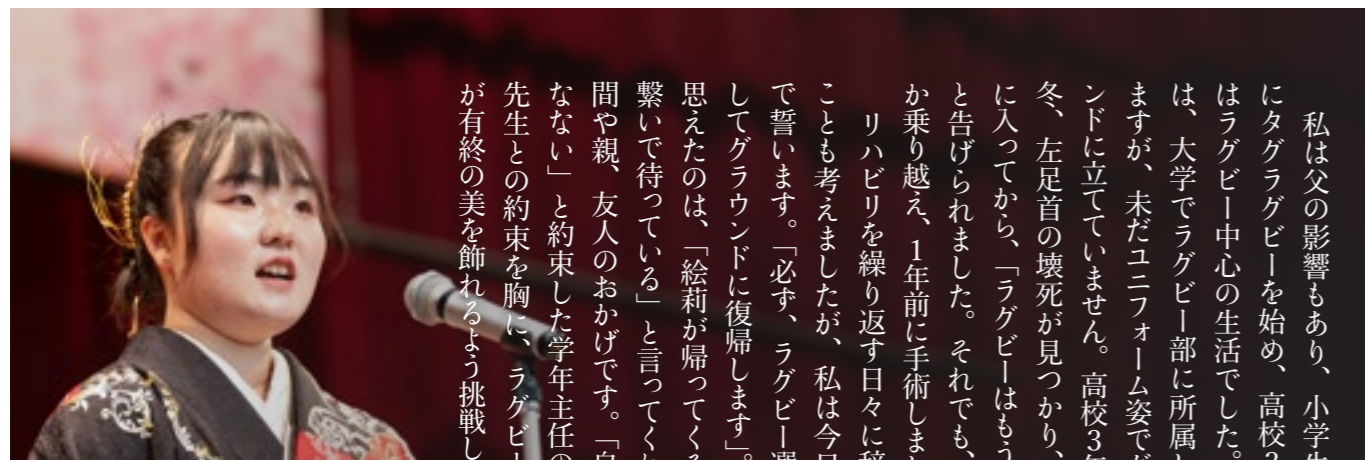
二十歳を迎えて考える大人とは。
過去を振り返り未来を見据える3人の決意表明。



大人の選択
二十歳を祝う会 実行委員 山口 輝さん

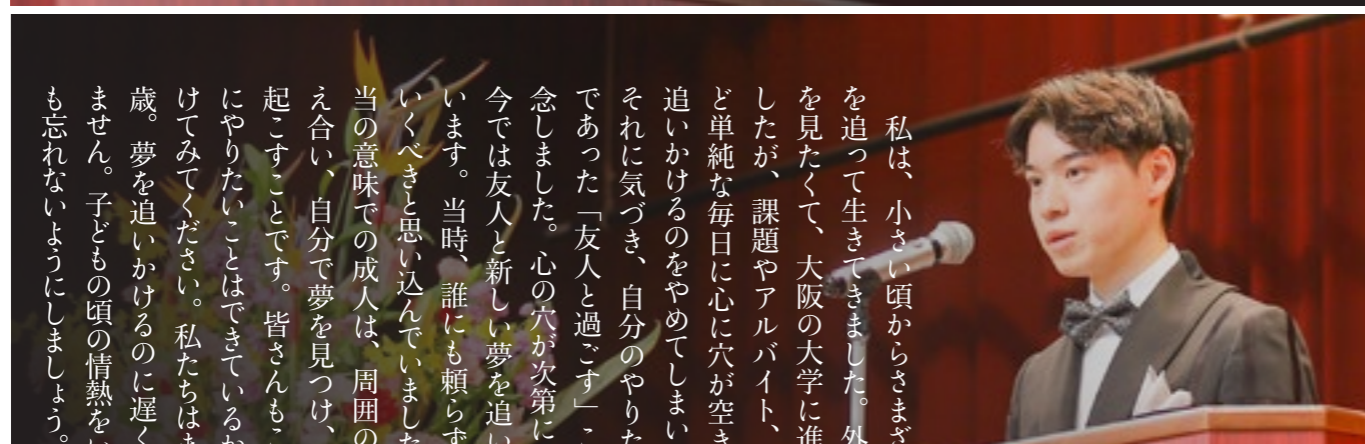
皆さんは本当に大人になれていきますか？大人になるとはどういうことでしょうか。私は、大人になることは選択することだと考えます。私たち自身が大人であると選択すれば、大人なのです。他人のせいにはしないと、都合の良いときだけ子どもとして逃げないこと、自立することなど人それぞれの大人像があると思います。時間の流れに身を任せることなく、自身の意思によって大人になりたいと願っています。

人生は選択の連続です。今後も選択を迫られる場面に多く直面すると思います。自分自身の選択を正解に導くために、全力で努力しながら自分の人生を切り拓いていきたいです。人生のストーリーをより良いものにするために、大人として選択し続けられる自分になっていきたいです。



ラグビー人生を諦めない
二十歳を祝う会 実行委員 竹内 絵莉さん

私は父の影響もあり、小学生の頃にラグビーを始め、高校3年間はラグビー中心の生活でした。現在は、大学でラグビー部に所属していますが、未だユニフォーム姿でグラウンドに立っていません。高校3年生の冬、左足首の壊死が見つかり、大学に入ってから、「ラグビーはもう無理」と告げられました。それでも、何とか乗り越え、1年前に手術しました。リハビリを繰り返す日々に諦めることも考えましたが、私は今日ここで誓います。「必ず、ラグビー選手としてグラウンドに復帰します」。そう思えたのは、「絵莉が帰ってくるまで繋いで待っている」と言ってくれる仲間や親、友人のおかげです。「自ら死なない」と約束した学年主任の小山先生との約束を胸に、ラグビー人生が有終の美を飾れるよう挑戦します。



夢を追いかける
二十歳を祝う会 実行委員 水田 文依さん

私は、小さい頃からさまざまな夢を追って生きてきました。外の世界を見たくて、大阪の大学に進学しましたが、課題やアルバイト、家事など単純な毎日に心に穴が空き、夢を追いかけるのをやめてしまいました。それに気づき、自分のやりたいことであつた「友人と過ごす」ことに専念しました。心の穴が次第に埋まり、今では友人と新しい夢を追いかけています。当時、誰にも頼らず生きていくべきと思いましたが、本当の意味での成人は、周囲の人と支え合い、自分で夢を見つけ、行動を起こすことです。皆さんもこの機会にやりたいことはできているか問いかけてみてください。私たちはまだ二十歳。夢を追いかけるのに遅くはありません。子どもの頃の情熱をいつまでも忘れないようにしましょう。



特集1 二十歳を祝う会に込めた思い ～自分たちで作上げた～

1月7日、中央公民館にスーツ姿や華やかな着物姿に身を包んだ二十歳の皆さんが続々と到着し、旧友との再会を喜んだ。

令和6年二十歳を祝う会対象者は2003年4月2日～2004年4月1日生まれの378人。このうち254人(出席率67.2%)が式典に参加。多くの来賓の皆さんや恩師の先生の祝福を受けて、温かい雰囲気の中で式典が挙行された。

式辞では加藤市長が「これまで20年間の歩みの中には、思い返すと、家族や友人、恩師、地域の方々など多くの

方の支えがあつたと思います。感謝の気持ちを決して忘れず、これから自分が地域社会の担い手として家族をつくり、守り育てていく立場になるとをしっかりと受け止め、人生をより豊かなものにしてください」と話した。また、実行委員が制作したムービーでは、思い出の写真や小・中学校時代の恩師のメッセージが上映され、昔を懐かしんだ。

式典の運営は、東温市二十歳を祝う会実行委員会(有志15人)が秋頃から、月に3回程度打ち合わせを行い、この日を迎えた。4ページ以降に詳細をレポートする。

令和6年東温市二十歳を祝う会 実行委員長謝辞



今日という日を迎えられたのは、家族、先生方、地域の皆さまの温かい愛情と指導のおかげです。これからも、自分をしっかり持ち、責任ある行動と周囲の人に心配りできる大人になれるよう、邁進します。

二十歳を祝う会実行委員長 高岡 壽天

CHECK! 令和6年東温市二十歳を祝う会メンバー紹介

Members Introduction

Noeru Umazaki
梅崎 希愛琉
川内中出身

県外の大学に通っており、みんなに任せっきりで申し訳なかったけど、年末に直接会うとそんな不安も吹き飛び、一気に距離が縮まりました。

Madoka Matsumoto
松本 まどか
川内中出身

最初は、現地組とオンライン組との間に壁を感じていましたがすぐに仲良くなり、晴れの舞台で運営・企画に携われたことを嬉しく思います。

Waka Tanimoto
谷本 和霞
川内中出身

東谷小でお世話になった富永先生が来てくださったことが、本当に嬉しかったです。最初は入るか迷った実行委員会。入ってよかったです！

Junten Hakaoka
高岡 壽天
重信中出身

DJ企画の調整・連携は慣れないことばかりで大変でしたが、仲間たちとやり遂げて一生に一度の最高の晴れ舞台になりました！

Joi Mizuta
水田 丈依
重信中出身

DJ企画や意見発表など自分のやりたいことができたので悔いはないです。協力していただいた方々には感謝の思いでいっぱいです。

Aori Honda
本田 惟緒吏
川内中出身

たくさんの人にご協力いただき、ムービーを作りました！来年以降も実行委員をやりたいという人が増えてくれたら嬉しいです。

Keita Maki
眞木 馨大
済美平成中出身

フォトブースの準備でみんなとの距離が縮まった気がします。小学校の運営委員会を思い出して楽しかったです。

Runa Kobayashi
小林 琉奈
重信中出身

企画や提案、運営まですることの大変さを感じました。協力して一つのことに取り組むことの大切さを学びました。

Miyabi Muraakami
村上 みやび
重信中出身

社会人になり、同級生との関わりも減っていたので、今回実行委員会に入ってみんなと仲良くなれてよかったです。

Sota Kikuchi
菊池 草汰
重信中出身

手伝えることがあるならと思って実行委員になりました。今では、こんなに多くの人に出会えて仲良くなれたことをとても嬉しく思います。

Hikaru Yamaguchi
山口 輝
愛光学園中出身

人生の節目の一つとなる晴れ舞台の運営を実行委員のみんなとできてよかったです。多くの人と再会できて、最高の式になりました！

Junshin Kakizoe
垣添 潤心
重信中出身

県外にいて思うように参加できず、年末からの参加になりましたが、準備を一緒に行う中で実行委員との距離が縮まり、仲良くなれました。

Cui Takeuchi
竹内 絵莉
川内中出身

びっくりするくらいあっという間に終わった式典。地元が一番と改めて感じました。私の中で人生のトップに入る思い出になりました。

Honoka Saiki
佐伯 穂果
県立西中出身

中学受験で市外に出たため、最初は仲の良い人ができるかすごく不安でしたが、今では仲間たちと一生に一度のイベントができて幸せです！

Manaka Higashi
東 愛羽
重信中出身

オンラインでの参加でもどかしい気持ちがありました。本番に向けてどんどん仲良くなりました。思い出を糧にこれからも頑張ります。

ゼロからつくる自分たちの式典

今年の二十歳の世代もまた、修学旅行など高校生活の思い出に残る行事にはすべて、「縮小」や「制限」がついていた。そんな生活を乗り越えた仲間たちと、「一生の思い出」を作るため実行委員会の皆さんが、「ふるさと東温市」に集結した。

初実行委員会！

企画1 フォトブース 全員で作業しました！

会場準備中！

企画2 ムービー制作 編集作業中です！

企画3 DJ企画 盛り上がり最高潮！

ハーフ「二十歳を祝う会」



東温市地域子育て支援センターで実施していた平成25年度生まれの赤ちゃんを対象とした子育てサークルが縁で10年経った今でも活動している「25ニコクラブ」。“ハーフ二十歳を祝う会”として当日実行委員会が作ったフォトブースで記念撮影しました。

9月上旬。中央公民館で初めての実行委員会が開かれた。例年よりメンバーも多く、15人の有志が集まった。現地組とリモート組に別れての参加。現地とオンラインで繋ぐ会議が続いた。「リモートだと企画を提案しても、任せっきりになってしまおうので、最初は現地組とオンライン組の壁を感じていました」と梅崎希愛琉さんは話す。ギクシヤクした雰囲気は転機が訪れたのは、実行委員会企画について内容を話し合う場面。「僕はやらぬ方が良くと思う」そう切り込んだのは菊池草汰さん。「全員が納得する形じゃないとやる意味がないと思ったので、みんなに確認をしました。やると決めたからには、どうすればみんなに楽しんでもらえるかを考えました」。全員で企画の課題や問題点を話し、全員が納得する方法での実現に向けて話し合いを重ねた。と当時を振り返る。佐伯穂果さんは、「実行委員会の企画もやりたいことをみんなの話し合っていたら、気づけば3つも企画があり、どう進めるかメインの担当をおいてそ

のリーダーを中心に進めていくことになりました。でも直前は担当関係なく全員が協力して取り組むことができ、最初感じていた距離もぐっと縮まったと思います」と話す。

実行委員長の高岡壽天さんは、「最初は反対派もいたDJ企画も、話し合った問題点を、実現に向けてどうクリアしていくかを考えました。僕自身、DJや音響の方との調整など、慣れないことばかりで、仕事が終わった後何度も打ち合わせを重ねました。本当に自分たちだけの力では、到底できなかったことをたくさんの方々の力を借りて実現することができたと思います」と企画実現のために重ねた努力や周囲の協力者への感謝を話す。

「正直ここまで仲良くなれると思っていなかった実行委員会のメンバー。また夏にも僕たちの姿を見て、来年も後輩たちには自分たちの色を出して、一生に一度の晴れ舞台を自分たちの手で作り上げてくれることを期待しています」と締め括った。